

福祉だより

ぬくもり

第133号
2024年4月28日

西宮市北六甲台地区
社会福祉協議会
会長 日高 昭夫

●発行/北六甲台地区社協●発行月/偶数月●編集/北六甲台地区社協広報研修部●配布エリア/北六甲台・上山口東

住人十色



句集「金木犀」の発刊 ちよい呑みオヤジ会 太田博さん

二月の「ちよい呑みオヤジ会」でメンバーである太田博さんから発刊されたばかりの句集「金木犀」が参加者に贈呈されました。一月の定例会で句集発行の近況報告があり、ぜひ読みたいという参加者の要望に添えて頂いたものです。

句集「金木犀」の発刊のいきさつ等を伺いました。

西宮市と中国紹興市が昭和六十年に共に醸造酒の産地ということ姉妹都市となりました。

この縁で西宮市北山緑化植物園の中に紹興市の名園・蘭亭内にある曲水をイメージして「小蘭亭」と「曲水」作品の展示場「墨華亭」を平成三年に完成し、以来毎年四月に「西宮蘭亭曲水の宴」が実施されてきました。太田博さんはその会長をされています。



この「曲水の宴」の時に詠んだ俳句二十句程を俳人木割大雄氏に見ていたのがきっかけとなりました。

木割氏は太田さんの為に五、六人のメンバーを集め句会「木割塾」を開塾されました。太田さんも月に一度、このメンバーに披露するために、毎日一句を詠むことを宣言されたそうです。

わずか四年ほどの間に千五百句も詠まれたのはこの宣言が後押ししたのかと得心しました。

数々の褒章・叙勲を受賞されている太田さんですが、地域のちよい呑みおやじ会にも早くから参加頂いています。人とのつながりを大事にされ、

それを継続される太田さんならではののお人柄が窺えます。

この句集には、生まれ故郷の長野県の風土をはじめ、奥様との出会いとなった黒四ダム建設現場、兵庫県北部の但馬や北六甲台の景色が多く詠まれています。

奥様も短歌を詠まれており、夫婦での詩歌集を出版して頂ければと思います。

句集から四句を紹介します。

- 雷光や父の権威のなくなりて(川柳風の味わいです)
- 墓塚や昔々のかくれんぼ(幼児の懐かしい風景描写です)
- 立夏きて余りの人生いかにせん(老いの戸惑いが伝わります)
- 妻あるも家に妻居ぬ年の暮れ(入院中の奥様不在の侘しさが伝わります)

(広報部 神田聡史)

第二十回 有馬川せくらまつり 好天と満開のせくらに記録的な来場者!

五年ぶりの本格開催

有馬川の桜が満開を迎えた四月六日、山口と北六甲台の両地区社協主催で「有馬川せくらまつり」が好天にも恵まれて開催されました。ここ数年、コロナ禍で自粛、縮小を余儀なくされていましたが、五年ぶりの本格開催となりました。



受付に長蛇の列

昨年同様、下山口会館と城垣内稲荷神社をスタート地点とし、夫婦松公園

まで歩く「せくらウォーク」を実施。抽選券を受け取ろうと、受付では配布開始前から長蛇の列。約三百枚用意していた抽選券は一五分ほどで配布終了となり、残念がる声が聞かれました。



屋台は大盛況!

桜を愛でながら歩いていくと、屋台から漂う匂いが「空腹を満たして」と誘います。焼きそばパン、うどん、肉巻きなどなど。ポランテアで参加してくれた山口中学校の生徒の呼び込みも功を奏し、どのお店も大盛況。

スライドショーで社協の活動紹介



昨年六月に地区社協のホームページを公開し、社協活動をネットで幅広く紹介する環境が整いました。

続いて十一月には「ぬくもりフェスタ」にあわせて地区社協の組織と活動を紹介するためパワーポイントによるスライドショーを作成しました。

地区社協の組織や各事業部の活動を動画や画像を中心にナレーションにそって十五分程度に分かりやすくまとめられています。

「ぬくもりフェスタ」で初めて上映したほか、直後の北六甲台と上山口のふれあい喫茶、ちよい

多世代交流も



この日、お子さんに人気だったのがゲームコーナー。「スパーボールすくい」や、ポランテア手作りの「輪ゴム鉄砲」「魚釣りゲーム」には、順番を待つお子さんがずらっと並びました。

ようやく順番がきてゲームに夢中になっているお子さんに、「そこ、ねらえ」と力のこもった声援を送るお父さん、かわい

能登半島地震義援金

義援金ご協力ありがとうございました。

募金額 35,949円

(広報部 小出)

呑みオヤジ会でも上映しました。上映終了時には寄せずして参加者の拍手が送られ、高評価の手応えが感じられました。

社協に関心はあるがどんなことをしているかわからないという方には打ってつけの教材です。地区社協は地域福祉活動に関心のある方の地区社協活動への参加を募っています。スライドショーはそのための入門教材でもあります。

関心のある方はぜひポランテアセンターにご一報下さい。

(広報部 小出)

いお孫さんにカメラを構えるおじいさん、など。お子さんだけでなく、ご家族みんなで楽しんでいる様子が見られました。

ここでも、中学生が大活躍。小さなお子さんに「あそこを狙うといいよ」などと優しく声を掛ける姿が見られました。世代を超えた交流が生まれるのもこの地域ならではの思い、心の中もほんのり桜色になったように感じました。

最後になりましたが、運営にご協力いただきました地域の皆様、熱く御礼を申し上げます。

来年もまた桜の花の下でお目にかかれますように。

(広報部 久慈)



ボランティア交流会

色んなボランティアのそれぞれの楽しみ方

井上ボランティアセンター長の司会で、三月六日（水）自治会館にてボランティア交流会が開催されました。

コーディネーターの自己紹介に続き、ボランティア活動の報告、四月六日の「さくらまつり」の協力のお願いの後、準備されたサンドウィッチを頂きながら、ボランティアをされている方からお話しをお聞きしました。

今まで仕事ばかりで地域の事に関わらなかつたからと、カーボランティアをして下さる方。九十才でふれあい喫茶の受



付をされる男性。IT関係に詳しく社協のホームページ作成に関わって下さった方も参加されました。



「コロナ前は、施設で喫茶のお手伝いをしながら入所者の方とお話しをするのが楽しかったが、まだ受入れがないので残念」と話される方。趣味や特技を生かして活動して下さる方々。その中でコーラスをされている方は、施設に行つて歌うのが楽しみで遠くまで行かれています。

「(1) (2) (3) 丸山カフェ」や「介護者の会」のお世話をして下さる方。そしてこの広報紙「ぬくもり」を配布して下さる方々。コーディネーターの中にも色々なボランティア活動をしている人もいます。「交流会に参加された方と共に、今住んでいるこの地域を少しでも良くしたい。また、お手伝いできる事があればさせて頂く。そうして喜んで下さると、こちらも嬉しくなる」。

（コーディネーター 井澤）

いきいき体操参加者の認知症講座



二月十五日に、山口地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座が、いきいき体操参加者を対象に開催されました。

事前にこの講座開催の連絡を受けた時、体操に参加している方は認知症の人を支える立場ではなく、むしろ支えて貰う立場の方と思っていました。が、いきいき体操参加者向けの市の定例講座とのことで受講しました。

しく理解する必要があり、それを家族に早期に知ってもらうことが大事です。よく言われるのが加齢による物忘れと認知症の記憶障害との違いです。「何を食べたか思い出せない」と「食べたことじたいを忘れてる」という違いに代表されるような状態を理解されればよいかと思えます。



（広報部 小出）



オヤジ会十周年記念例会

十年前の二〇一四年一月にちよい呑みオヤジ会が発足しました。そして今年一月には十周年記念の例会を迎えました。途中二年ほどコロナ禍で休止しましたが通算七五回目の開催でした。

毎年一月は日曜日に「サンパレス六甲」で総会的な例会を開催しており、今回も一六名の参加がありました。

岡崎院長のスピーチ

今回例会のトピックスはオヤジ会メンバーでもある山口町あすなろクリニックの岡崎院長のスピーチです。住民に関心のある済生会兵庫病院と三田市民病院の統合問題について地域医療の現場からの解説をお願いしました。

病院運営の環境の厳しさ

両病院の診療科、常勤医師やスタッフ数、人口

オヤジ会

あすなろクリニック 岡崎院長スピーチ

近隣の基幹病院統合問題の解説

や高齢化の動向、急性期医療と慢性期医療の現状、病院運営の深刻な人員不足、地域医療機関との連携等が説明され、今回の合併計画の受止め方について語られました。

統合メリットへの期待

総論としては人口減少や高齢化等の環境変化や深刻な医師不足の現状から、しっかりと基盤を整えた基幹病院の整備が欠かせないとのこと。

地域医療の現場を預かるクリニックとしても緊急時に安心して外来患者を委ねられる基幹病院へ



の期待がある。

とりわけ深刻な医師不足や医療関係者の苛酷な労働環境が病院運営の疲弊をもたらしている現状の危機感が窺えました。

統合によるマンパワーの集中と救急医療体制の充実、診療科の拡充や最新機器の導入による医療レベル向上等のメリットへの期待も伝わりました。

「統合に理解」の声

スピーチ後に参加者からの質問や意見が相次ぎました。馴染んだ病院がなくなる不安や、遠くなること通院の不便さは否定できません。ただ病院を取り巻く環境の厳しさを考えれば統合計画自体は避けたいという声が多数を占めていました。

二時間半の例会がいつになくアカデミックな雰囲気の内を終了しました。（オヤジ会 日高）

「にっこ丸山カフェ」をご存知ですか？

令和五年まで活動させて頂いていたコープ西宮北の閉店に伴い活動場所を西宮山口公民館に移行しました。西宮市社協、山口・北六甲台地区社協のご尽力、ご協力のもと活動継続が可能になったことを喜んでいきます。

こうした支援がなければ「にっこ丸山カフェ」の活動継続は難しかったと思います。

立ち上げの時から念頭の体制が整いました。しかし、コロナで活動自粛を経てからの活動再開は、参加者、ボランティア、支援の近隣施設にも



関り方の変化を余儀なくされています。対象エリアは山口・北六甲台地区に跨り広範囲です。会場移転で参加者が一時減少していましたが、最近では新しい参加者も増えてきています。

「にっこ丸山カフェ」は、ボランティア・地域包括センター・地域の福祉施設等専門職が常駐し、色々な相談ができる体制をとっています。ただでも参加できる場づくりを心掛けています。北六甲台地区の方々のご参加心よりお待ちしております。

（スタッフ一同）

「にっこ丸山カフェ」は毎月第四木曜日、山口公民館実習室で午後一時三十分より開催。

